

日本ヒューマン・ケア心理学会 研修会

# 「児童虐待」の対応に役立つ解決志向・入門編

2018年6月24日（日）9：30～11：30

京都橘大学（優心館E304）

講師：宮井 研治（京都橘大学健康科学部心理学科教授）

「児童虐待」対応の難しさは、介入と同時に支援についても考えていかないといけないところにあります。リスクアセスメントとともに、ケースの強み（ストレンクス）についても、アセスメントする眼を持たなくてはなりません。強みを拾い上げる支援者側の姿勢に「解決志向」という考え方があります。解決志向アプローチは、アメリカにあるBrief Family Therapy CenterのSteve de ShazerとInsoo Kim Bergらが開発した、Solution Focused Therapyをモデルにして発展している新しい心理療法です。解決とは変化であり、クライアントは変化していくものという基本理念を「解決志向」は持っています。問題を聴くだけでなく、少しマシなところ、まだこわれてないところをさがすための支援者側の対応方法です。そのためには質問の仕方に工夫があり、クライアントの「マシなところ」を探し、ひろげ、強めることがこの面接の基礎となります。今回の研修会は、そんな解決志向の雰囲気を感じ、質問の仕方についてエクササイズしていただける時間にしたいと考えております。児童虐待だけでなく、さまざまな分野の支援や危機介入に役立つものですので、ご関心のある方はぜひご参加ください。



## 【講師：宮井 研治 略歴】

大阪市の臨床心理職員として、姫島子ども園、中央児童相談所、児童院に勤務。こども相談センター相談支援担当課長代理や虐待対応担当課長などを歴任。著書に「児童虐待と児童相談所—介入的ケースワークと心のケア」（金剛出版）、「発達相談と援助—新版K式発達検査2001を用いた心理臨床」（ミネルヴァ書房）、「子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ〈仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ〉」（明石書店）、「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ—よりよい臨床のための4つの視点,8つの流儀」（明石書店）がある。

本研修会は、日本健康心理学会第31回大会／日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第20回大会合同大会（後援：京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会）と並行して同日に開催されるものですが、どなたでもご参加いただけます。参加ご希望の方は、6月15日（金）までに

<https://goo.gl/forms/DDK2HerOV2zyTRlh1> にアクセスし、必要事項を送信してください。

（「日本ヒューマン・ケア心理学会のホームページ→第20回大会→研修会のお知らせ」からも

アクセス可）送信後に表示される口座への参加費（3,000円）のお振込を以って申込が確定します。

京都橘大学 京都市山科区大宅山田町34（会場は大学バス停前の「優心館」3階）

アクセス：山科駅5番乗り場から京阪バス橘大学行臨時直通便あり（8:30/8:45/8:50発）

または地下鉄東西線「柳辻（なぎつじ）」駅から東へ徒歩15分

お帰りは徒歩5分の大宅バス停（京阪バス営業所向かい側車線）から毎時22分/52分発

お問合せメール [jahp-jpahc-committee@tachibana-u.ac.jp](mailto:jahp-jpahc-committee@tachibana-u.ac.jp)